

中嶋康夫さん 青梅市 「写真は人をつなげてくれる」

青梅市東青梅の中嶋康夫さんが「大神のやどる山里」の写真集

を刊行してもうすぐ1年になる。今は埼玉県小鹿野町の津谷木歌舞伎にレンズを向ける日々だ。

「大神のやどる山里」は、同市小曾木の岩蔵地区に伝わる2つの行域に祀られている「おいぬさま」にご飯、塩、酒を供えて1年の無事、平穏を願う神事。暮らしや文化など民俗的な記録面からも喜ばれる写真集になった。

写真を始めたのは高校時代。新宿のデパートで「世界報道写真展」を見て感銘を受けた。東京写真大学（中

レンズを向けて50年

写真集5冊発刊



今は小鹿野町の津谷木歌舞伎にレンズを向ける日々

した。 拝島にあった石川ジムでの撮影で、ミドル級の佐々木英信さんとの出会い、ボクシングに情熱を注ぐ姿を追いかけた。1987（昭和57）年に初の写真展「ボクサー英信」を新宿で開催した。雑誌の「ワールドボクシング」から声をかけられカメラマンの仕事に打ち込んだ。

地域の風景、文化・芸能を記録

99年には霞川の汚れに胸を痛め、現状を報告した。 写真は続けていたが、60代は親の介護に追われた。その後、コロナ禍となった。外出ができず、家で撮りためたネガを整理すると、1975（昭和50）年ごろの青梅の商店街の日常などの風景が出てきた。 妻の喜代子さんが「写真は人をつなげてくれるもの」。それだけにフィルム撮影にこだわる。「暗室で印刷紙に焼く。フィルムの写真には艶がある。デジタルではそうはいかない」とうなづいた。

一晩に2度、車道寝こみ者を救助 京王の宮川さんに青梅署長感謝状



お手柄の宮川さん（右から2人目）と行動を称えた末次署長（同3人目）

青梅警察署は5月27日、酒に酔って車道で寝てしまった人を救助

し交通事故を未然に防いだタクシー運転手の宮川俊二さん（京王自

動車青梅営業所）に感謝状を贈った。

品種は人気の「ゴールドラッシュ」など。この時期は収穫したてのトウモロコシが目を追って増えていく。

同市内を横断する旧秋川地区の五日市街道沿いに広がるグリーンベルトは一面のトウモロコシ畑。畑と露店売りが道端に並ぶ光景から別名「トウモロコシ街道」と呼ばれてきた。収穫は早いものが5月下旬に始まり、6月下旬から旬を迎える。



間もなく旬を迎える特産のトウモロコシ

特産品「秋川とうもろこし」旬を迎える 甘み強い新種も

あきる野市の特産品「秋川とうもろこし」がJ Aあきがわ「秋ター」（あきる野市二

川ファーマーズセン宮、042・559・

が、新たなまねぎフェアを開催中。

路上寝込み者見たら110番通報を

4月18日23時過ぎ、宮川さんは同市河辺町3丁目でタクシーを運転中に、酒に酔って車道で寝てしまっていた人を発見し、車にひかれ、悲惨な事故を減らすため、ハイビームを活用し、遠くの危険を早めにキャッチすることが大切。路上で寝込んでいた人を見かけたら110番通報してほしい」と呼びかける。

トで照らすなどして協力し、事故を未然に防いだ。 日付が変わり19日深夜1時ごろに営業運行を再開。すると2時過ぎ、羽村市小作台を走行中、再び路上寝こみ者を発見。同様の措置を行い、警察へ引き継いだ。

宮川さんは同営業所の熊谷伸勝所長とともに贈呈式に出席。末次健次署長から感謝状が手渡された。宮川さんは「一晩で2件の路上で寝込む人と遭遇し驚いている。今後とも注意を払い、周りの人に路上で寝込む危険性について広く知らせていきたい」と話した。

警視庁管内では昨年、路上寝込み事故で10人が亡くなった。今年も4月までで3人が亡くなっている。同署は「飲み会が増える時期や金曜日などに、路上に寝込んだ人が車にひかれる事故が多い。悲惨な事故を減らすため、ハイビームを活用し、遠くの危険を早めにキャッチすることが大切。路上で寝込んでいた人を見かけたら110番通報してほしい」と呼びかける。